

一第42編一 カタルニアの奇跡

バルセロナ、アシャンプラのグラシア通り43番地にある「カサ・バトリヨ^{*1}」は、1870年に建設された。カタルニアが生んだ奇跡の建築家ガウディ^{*2}は、大繊維業者ジュゼップ・バトリヨ・イ・カザノバ^{*3}の依頼を受け、1904年から1906年にかけてこの邸宅を改築した。建物に5階と地下室を加え、玄関ホールを広げて階段や内壁を作り直し、各部屋に彼独特の曲線的なデザインを導入した。そして、建物の外部・内部を問わず所にタイルやステンドグラスによる装飾を施した。

その造形解釈については諸説が入り乱れる。①屋根の一部がまるでドラゴンの背中のように丸く盛り上がっていることから、カタルニアの守護聖人サン・ジョルディの竜退治の伝説を表現したとする説、②屋根をアルカンの帽子に見立て、ファサードのバルコニーは仮面を、また多彩な色の破碎タイルのモザイクが祭りの紙吹雪を



写真42-1 カサ・バトリヨ外観

- *1
Casa Batlló
(1904~1906)
- *2
Antoni Gaudí
(1852~1926)
- *3
Josep Batlló i
Casanovas
(c.1834)



写真42-2 屋上の煙突

表わしているとす謝肉祭説、③邸内でガウディは自然光を効果的に取り込み、そのタイルの濃淡を変え、これらの光と色の効果により海底洞窟をイメージしたとする説、等々。

見る人がこうした物語を重ね合わせようとするほどに、超人的なアイデアとそれを形態化する技術と美意識が、その隅々までを支配している。俗な既視感など全く寄せ付けない全体と部分のオリジナリティは、故に彼を孤高の建築家たらしめたのであった。



写真42-3 中庭見上げ



写真42-4 玄関周り

孤高の人は、えてして幸せな晩年からは縁遠いのだろうか。1926年6月7日、ガウディはミサに向かう途中で、路面電車に轢かれてしまった。晩年身なりに気をつかわなかった彼は、浮浪者と間違われたために手当てが遅れ、事故の三日後に73歳で息を引き取ったという。遺体は今も延々と建設が続く大聖堂「サグラダ・ファミリア^{*4}」に埋葬された。ちなみに、女性恐怖症であったとされるガウディは、終生独身であった。

*4
La Sagrada Família